

2012年度キャリア・就職支援への取り組み調査

2012年6月



内容 大学等のキャリア・就職支援の実態に関する調査
実施期間 2012年4月23日～2012年6月12日
調査対象 全国の大学・短期大学の就職支援担当部署・窓口
調査方法 アンケート用紙を全国の就職担当部署に弊社学校担当が配布の上、FAX若しくは直接回収。
回答属性データ

カテゴリー	国公立	私立	全体
学校別回答数	95	315	410
キャンパス別の回答数	8	26	34
総計	103	341	444

キャンパス別とは・・・同じ大学でも就職窓口が個別に存在し、独自の支援を行っているケースがあるため、一回答として集計した。

学校所在地	国公立	私立	全体
北海道	11	18	29
東北	13	25	38
関東	18	126	144
甲信越	6	15	21
東海	5	39	44
北陸	6	11	17
関西	15	50	65
中国	9	11	20
四国	7	10	17
九州	13	36	49
総計	103	341	444

大学	402	女子大学	31	短期大学	11
----	-----	------	----	------	----

質問事項 FAは自由記入の意

1) 2013年卒向け学内ガイダンスについて	開催回数の増減 開催時期の変動	学生のトータル参加人数の増減 ガイダンスの開始時期
2) 2013年卒向け学内企業説明会について	開催日数の増減 開催時期の変動 3月以前トータル参加企業数の増減	学生のトータル参加人数の増減 学内企業説明会の開始時期 4月以降の開催日数の増減
3) 2013年卒向け採用広報を目的としない企業を 招いて実施する業界研究セミナーについて	開催回数の増減 開催時期の変動 広報開始の後ろ倒しによる影響の有無	学生のトータル参加人数の増減 業界研究セミナーの開始時期 実施実績
4) 2013年卒向けの求人(票)の受付について	求人(票)の受付社数の増減 求人(票)の受付方法 学内への求人揭示方法	求人の依頼時期の変動 企業人事の訪問件数増減 学生の利用率(揭示方法別)
5) 2014年卒向け就職ガイダンスの予定について	開催回数の増減 ガイダンスの開始時期	開催時期の変動
6) 2014年卒向け採用広報を目的としない企業を 招いて実施する業界研究セミナーについて	開催回数の増減	開催時期の変動
7) 2014年卒向け学内企業説明会の予定について	開催回数の増減 招致企業への案内時期の変動	開催時期の変動 学内企業説明会の開始予定時期
8) 採用広報開始時期後ろ倒しの影響について	11月以前の授業出席率 業界・職種・企業研究 筆記試験対策 面接対策 学生企業選択基準 年内の学生相談件数 広報開始時期の変更により、学生に起こった変化として最も影響があったこと(FA)	12月以降の授業出席率 自己分析 エントリーシート対策 学生の就職意識の高まり 大手志向 年明け以降の学生相談件数
9) 秋入学への変更が学生の就職に与える影響	ガイダンスの実施回数 学生が就職に費やす時間 ギャップタームの影響	採用広報開始時期 貴校生徒の内定率
10) グローバル人材について	外国人留学生の受入れの有無 外国人留学生の就職サポート主体 日本人学生向け海外大留学プログラム有無 留学経験者は全学生数の約何割か	在籍者数は全学生数の約何割か 2012年卒で外国人留学生の就職率増減 近年留学を希望する日本人学生の増減
11) SNSを利用した就職活動について	2013年卒の学生からSNSを活用した就職活動について相談はあるか SNSを活用した就職活動に関する指導実施の有無 SNSを活用した就職活動に対する意見	
12) 2013年卒・2014年卒の就職支援について	2013年卒・2014年卒の就職支援について(FA)	

1)2013年卒向け就職ガイダンスについて (P3)

2013年卒向け学内就職ガイダンスは広報開始時期の2ヶ月後ろ倒しによる環境変化に備え、開催回数を「増やした」が24.4%と、2年連続で増加傾向にある。学生の参加人数は「増えた」が34.6%とする中、国公立で「減った」が19.8%と、一部の学生たちは後ろ倒しを受けて準備を遅らせるケースもみられた。開催時期を「早めた」大学は10.9%と、前年比でやや前倒しとなるも、開始時期は4月が32.8%で最も多く、4月に集中する傾向にある。

2)2013年卒向け学内企業説明会について (P4-5)

学内の企業説明会は「増やした」が22.0%と増加傾向にある。参加企業数も「増えた」が対前年13.9pt増の40.8%と、大幅に増加している。学生の動員も「増えている」が対前年8.6pt増の43.4%と増加に転じており、積極的に活用する姿勢がみられた。但し、国公立では開催時期を「遅らせた」が対前年21.3pt増の26.1%と、開催時期自体を後ろ倒しにした影響か、参加人数が「減った」が20.9%と高い数値となっている。学内企業説明会の開始時期は国公立を中心に12月が42.6%と昨年の2月からピークが移行した。

3・4)2013年卒向け採用広報を目的としない業界研究セミナー・2013年卒向け求人票受付について (P6-7)

職業観涵養を目的とした業界研究等のセミナー開催は「増やした」が26.8%と、増加傾向にある。但し、日本経済団体連合会の倫理憲章改定により「12月1日以前の学内企業説明会等への参加も自粛」となり、「企業の協力が得づらかったことがあった」とする回答が37.1%と、企業動員に苦勞する一面もあったようだ。開始時期は10月が30.5%と、学内会社説明会の2ヶ月前から実施する割合が高い。

求人票の受付社数は前年より「多い」が41.2%と企業の旺盛な雇用意欲を裏付ける結果となった。求人情報の掲示方法は「紙でファイリング」が92.7%で最も高いが、掲示方法として最も活用しているのは「学内のネットワーク」となっている。

5・6・7)2014年卒向け学内ガイダンス・業界研究セミナー・学内企業説明会の予定について (P8-9)

2014年卒向けの就職ガイダンス開始予定時期は13年卒と変わらず4月が32.1%となっている。

2014年卒向け採用広報を目的としない業界研究セミナーは「増やす予定」が17.7%と13年卒に引き続き増加傾向にある。学内企業説明会については開始時期を「早める予定」が8.9%と若干前倒し、12月から開始する割合が増加することになりそうだ。

8)採用広報開始時期後ろ倒しの影響について (P10-11)

11月以前の授業への出席率は「上がった」が13.5%と、倫理憲章改定の目的である「学業への配慮」が多少なりとも形となって表れている。但し、11月以前の出席率で「変わらない」が85.7%となっていることや、12月以降の授業出席率で「下がった」が10.4%となるなど、十分な成果を挙げているとは言いがたい。また、学生の就業意識の高まりが「遅くなった」とする回答が43.9%と、十分な準備期間が取れない状況にあったとみられる。あわせて、企業との接触機会が減少した影響で、業界・職種・企業研究が「不十分だった」とする回答が63.9%と、仕事理解不足を懸念する声が大きく、学業に専念する環境の構築には一定の効果がみられたものの、仕事理解を中心に準備不足に陥る学生も多く、決して良い成果ばかりという訳ではないようだ。

9)秋入学への変更が学生の就職に与える影響について (P12)

秋入学が就職へ与える影響を「秋に全大学が一斉に移行」した場合と、「春と秋に分散」した場合で確認すると、ガイダンスが「増える」とする割合は「秋一斉移行」が19.2%に対し、「春・秋に分散」は63.0%など、「春・秋に分散」の方が影響を及ぼす割合が高い。これは他の項目でも同様の傾向を示している。秋入学の争点の一つであるギャップタームについても、「春・秋に分散」において、「プラスに働く」が12.6%に対し、「マイナスに働く」が41.6%と、就職にはあまり良い影響を与えないのではないかという意見が多かった。

10)グローバル人材について (P13)

外国人留学生の受け入れは86.2%の大学が実施している。外国人留学生の就職率は「上がった」が15.8%と「下がった」の4.3%を上回り、就職環境は改善傾向にある。外国人留学生の就職サポートはキャリアセンターで行う割合が81.0%と、日本人学生と同様に支援していることが分かる。日本人学生向けの海外留学プログラムも73.5%の大学が用意しており、留学を希望する学生の割合も「増加している」が26.8%と、「減少している」の22.7%を上回っている。

11) SNSを利用した就職活動について (P14)

話題のSNSを活用した就職活動について相談を受けたことがあるかという設問では、8割強が「相談はない」と回答している。弊社のライフスタイル調査でも活用している学生の割合は3割程度となっており、まだ全学生が活用するという状況にはなっていないようだ。キャリアセンターとして、SNSの活用を推奨しているかという設問には「一定の範囲で活用すべき」が64.1%で最も高い。一方、「あまり活用すべきではない」も24.7%あり、キャリアセンターとしても慎重に指導したいという姿勢もみられた。

本資料について

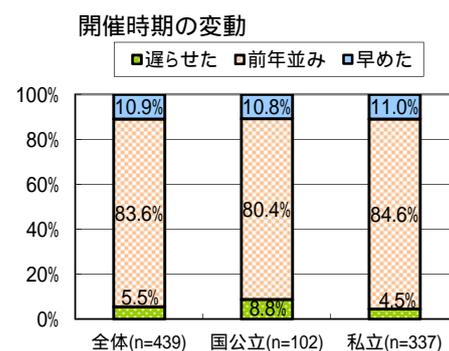
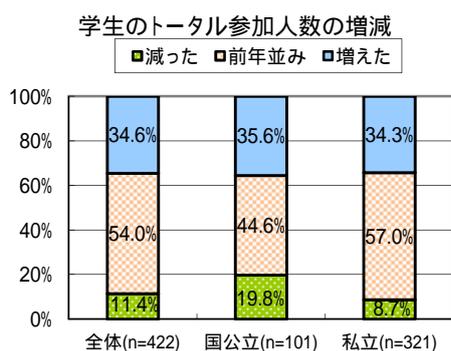
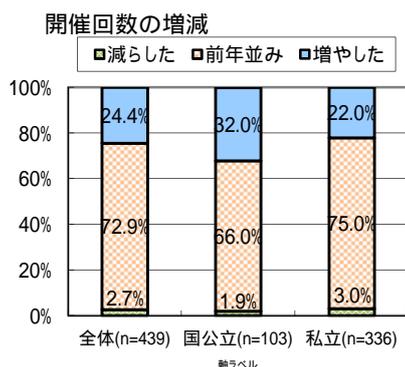
資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。
株式会社マイナビ 就職情報事業本部 HRリサーチセンター
TEL: 03(6267)4571 / E-mail: hrrc@mynavi.jp

1)2013年卒向け就職ガイダンスについて

開催回数の増減	全体(n=439)	国公立(n=103)	私立(n=336)	参考:昨年全体
増やした	24.4%	32.0%	22.0%	28.5%
前年並み	72.9%	66.0%	75.0%	70.1%
減らした	2.7%	1.9%	3.0%	1.4%

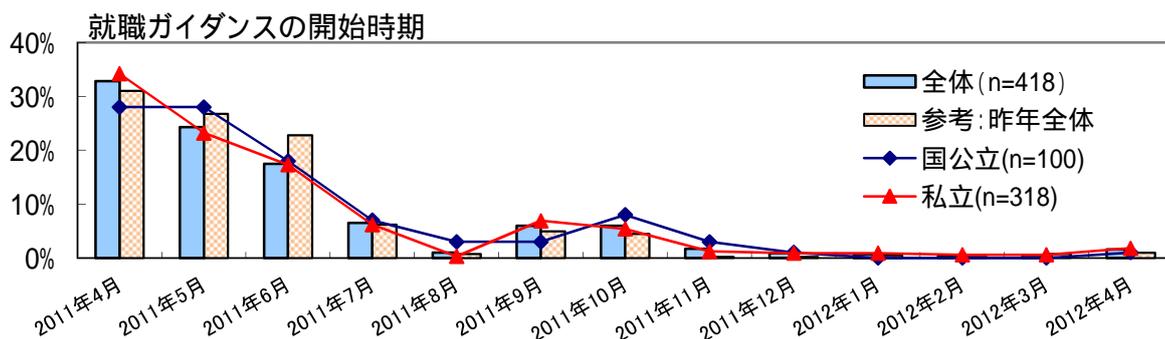
学生のトータル参加人数の増減	全体(n=422)	国公立(n=101)	私立(n=321)	参考:昨年全体
増えた	34.6%	35.6%	34.3%	33.6%
前年並み	54.0%	44.6%	57.0%	54.3%
減った	11.4%	19.8%	8.7%	12.1%

開催時期の変動	全体(n=439)	国公立(n=102)	私立(n=337)	参考:昨年全体
早めた	10.9%	10.8%	11.0%	11.6%
前年並み	83.6%	80.4%	84.6%	85.5%
遅らせた	5.5%	8.8%	4.5%	2.8%



就職ガイダンスの開始時期	全体(n=418)	国公立(n=100)	私立(n=318)	参考:昨年全体
2011年4月	32.8%	28.0%	34.2%	31.0%
2011年5月	24.3%	28.0%	23.2%	26.8%
2011年6月	17.5%	18.0%	17.3%	22.8%
2011年7月	6.5%	7.0%	6.2%	6.2%
2011年8月	1.0%	3.0%	0.3%	0.7%
2011年9月	6.0%	3.0%	6.9%	5.0%
2011年10月	6.0%	8.0%	5.4%	4.5%
2011年11月	1.7%	3.0%	1.2%	0.2%
2011年12月	0.9%	1.0%	0.9%	0.2%
2012年1月	0.7%	0.0%	0.9%	0.5%
2012年2月	0.4%	0.0%	0.6%	0.2%
2012年3月	0.5%	0.0%	0.6%	0.7%
2012年4月	1.6%	1.0%	1.8%	1.0%

集中時期の4-6月の内訳	全体(n=418)	国公立(n=100)	私立(n=318)	参考:昨年全体	
2011年4月	上旬	18.2%	12.0%	20.1%	14.9%
	中旬	8.9%	9.0%	8.8%	9.7%
	下旬	5.7%	7.0%	5.3%	6.5%
2011年5月	上旬	6.9%	6.0%	7.2%	6.5%
	中旬	10.0%	13.0%	9.1%	11.9%
	下旬	7.4%	9.0%	6.9%	8.4%
2011年6月	上旬	9.6%	10.0%	9.4%	11.4%
	中旬	3.8%	3.0%	4.1%	6.7%
	下旬	4.1%	5.0%	3.8%	4.7%



2)2013年卒向け学内企業説明会について

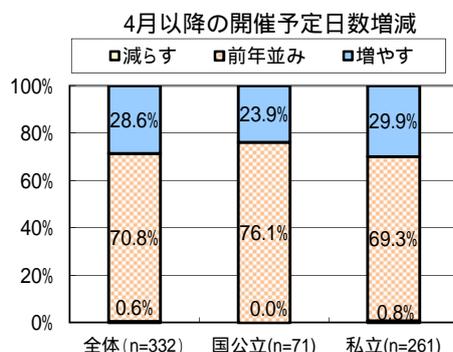
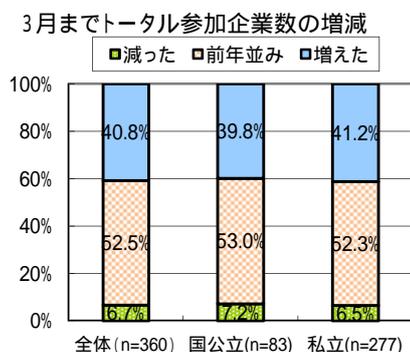
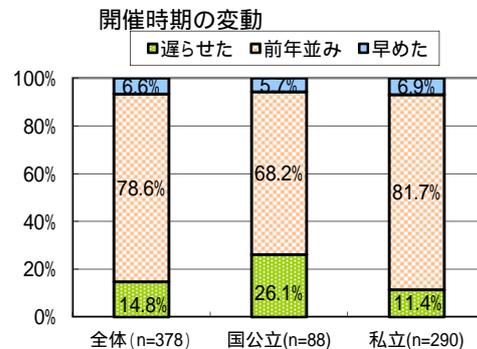
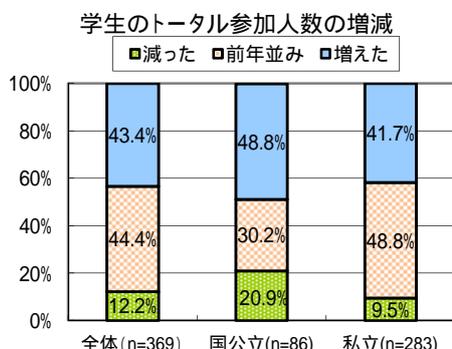
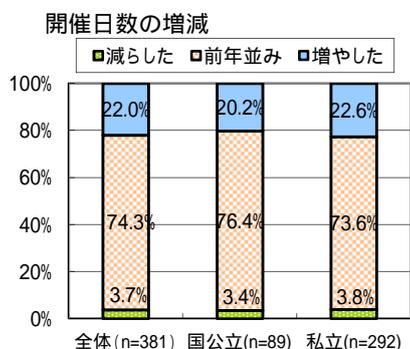
開催日数の増減	全体 (n=381)	国公立(n=89)	私立(n=292)	参考: 昨年全体
増やした	22.0%	20.2%	22.6%	20.3%
前年並み	74.3%	76.4%	73.6%	75.6%
減らした	3.7%	3.4%	3.8%	4.1%

学生のトータル参加人数の増減	全体 (n=369)	国公立(n=86)	私立(n=283)	参考: 昨年全体
増えた	43.4%	48.8%	41.7%	34.8%
前年並み	44.4%	30.2%	48.8%	46.4%
減った	12.2%	20.9%	9.5%	18.8%

開催時期の変動	全体 (n=378)	国公立(n=88)	私立(n=290)	参考: 昨年全体
早めた	6.6%	5.7%	6.9%	10.9%
前年並み	78.6%	68.2%	81.7%	86.3%
遅らせた	14.8%	26.1%	11.4%	2.8%

(前半3月まで)トータル参加企業数の増減	全体 (n=360)	国公立(n=83)	私立(n=277)	参考: 昨年全体
増えた	40.8%	39.8%	41.2%	26.9%
前年並み	52.5%	53.0%	52.3%	56.3%
減った	6.7%	7.2%	6.5%	16.9%

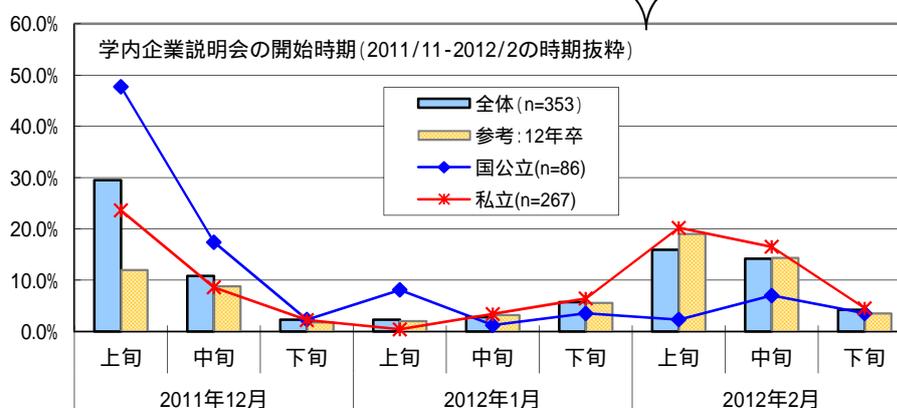
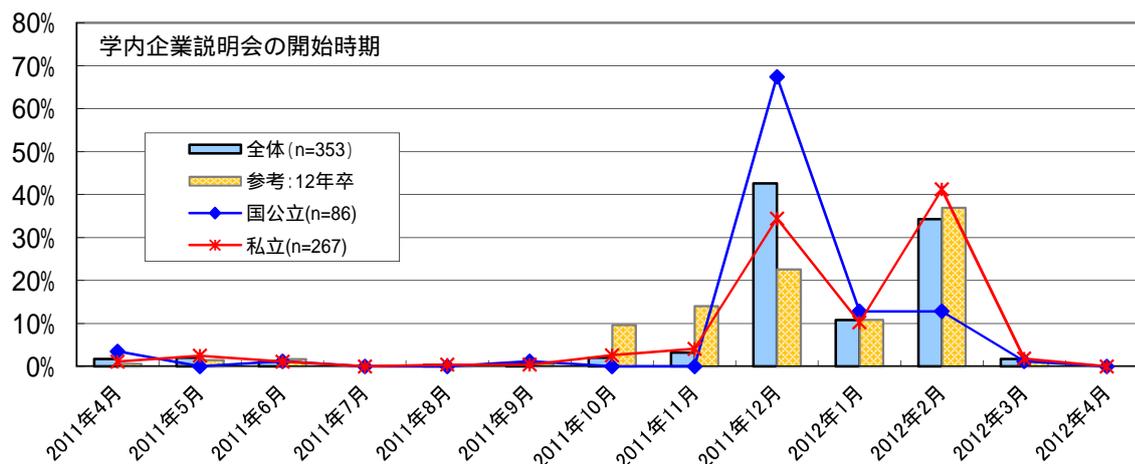
2013年卒向けの4月以降の開催日数増減	全体 (n=332)	国公立(n=71)	私立(n=261)	参考: 昨年全体
増やす	28.6%	23.9%	29.9%	26.5%
前年並み	70.8%	76.1%	69.3%	70.6%
減らす	0.6%	0.0%	0.8%	2.9%



2)2013年卒向け学内企業説明会について

学内企業説明会の開始時期	全体(n=353)	国公立(n=86)	私立(n=267)	参考:昨年全体
2011年4月	1.7%	3.5%	1.1%	0.6%
2011年5月	2.0%	0.0%	2.5%	1.5%
2011年6月	1.1%	1.2%	1.1%	1.8%
2011年7月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2011年8月	0.3%	0.0%	0.4%	0.3%
2011年9月	0.6%	1.2%	0.4%	0.6%
2011年10月	2.0%	0.0%	2.6%	9.7%
2011年11月	3.2%	0.0%	4.1%	14.1%
2011年12月	42.6%	67.4%	34.4%	22.6%
2012年1月	10.8%	12.8%	10.2%	10.9%
2012年2月	34.3%	12.8%	41.2%	37.0%
2012年3月	1.7%	1.2%	1.8%	1.2%
2012年4月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

集中時期の12-2月の内訳	全体(n=353)	国公立(n=86)	私立(n=267)	参考:昨年全体	
2011年12月	上旬	29.5%	47.7%	23.6%	12.0%
	中旬	10.8%	17.4%	8.6%	8.8%
	下旬	2.3%	2.3%	2.2%	1.8%
2012年1月	上旬	2.3%	8.1%	0.4%	2.1%
	中旬	2.8%	1.2%	3.4%	3.2%
	下旬	5.7%	3.5%	6.4%	5.6%
2012年2月	上旬	15.9%	2.3%	20.2%	19.1%
	中旬	14.2%	7.0%	16.5%	14.4%
	下旬	4.2%	3.5%	4.5%	3.5%



3)2013年卒向け採用広報を目的としない企業を招いて実施する業界研究セミナーについて

開催回数の増減	全体 (n=265)	国公立(n=57)	私立(n=208)
増やした	26.8%	35.1%	24.5%
前年並み	64.2%	56.1%	66.3%
減らした	9.1%	8.8%	9.1%
13年卒の実施実績業界・職種数:1校平均	8.1	7.1	8.3
13年卒の延べ実施実績回数:1校平均	7.4	5.6	7.9

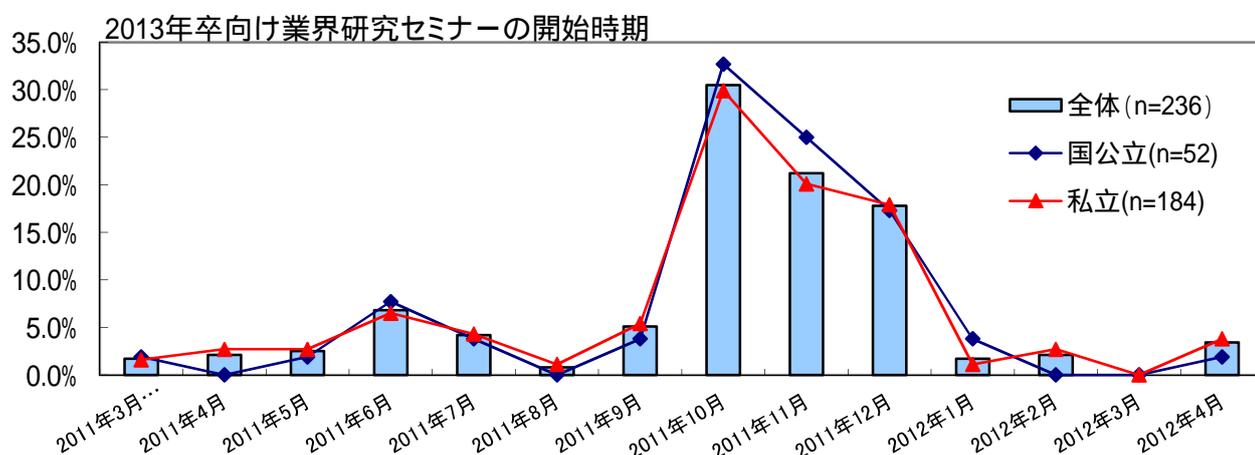
トータルの参加人数	全体 (n=257)	国公立(n=57)	私立(n=201)
増えた	37.0%	32.1%	38.3%
前年並み	52.5%	51.8%	52.7%
減った	10.5%	16.1%	9.0%

広報開始の後ろ倒しで、企業の協力が得づらかったこと	全体 (n=245)	国公立(n=49)	私立(n=196)
あった	37.1%	49.0%	34.2%
なかった	62.9%	51.0%	65.8%

参加企業数	全体 (n=267)	国公立(n=60)	私立(n=207)
増えた	26.2%	31.7%	24.6%
前年並み	62.5%	55.0%	64.7%
減った	11.2%	13.3%	10.6%

開催時期の変動	全体 (n=261)	国公立(n=54)	私立(n=207)
早めた	11.1%	9.3%	11.6%
前年並み	75.5%	75.9%	75.4%
遅らせた	13.4%	14.8%	13.0%

2013年卒向け業界研究セミナーの開始時期	全体 (n=236)	国公立(n=52)	私立(n=184)
2011年3月以前	1.7%	1.9%	1.6%
2011年4月	2.1%		2.7%
2011年5月	2.5%	1.9%	2.7%
2011年6月	6.8%	7.7%	6.5%
2011年7月	4.2%	3.8%	4.3%
2011年8月	0.8%		1.1%
2011年9月	5.1%	3.8%	5.4%
2011年10月	30.5%	32.7%	29.9%
2011年11月	21.2%	25.0%	20.1%
2011年12月	17.8%	17.3%	17.9%
2012年1月	1.7%	3.8%	1.1%
2012年2月	2.1%		2.7%
2012年3月			
2012年4月	3.4%	1.9%	3.8%

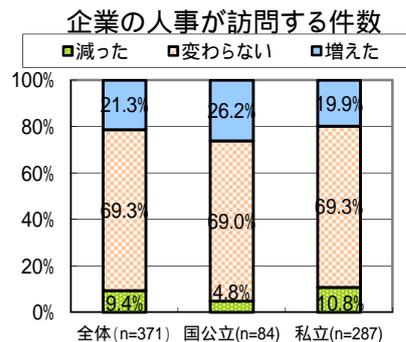
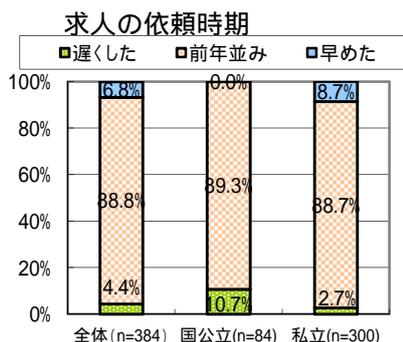
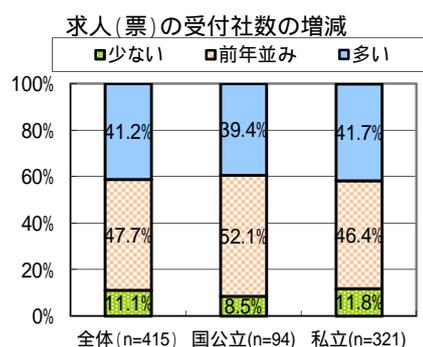


4) 2013年卒向けの求人(票)の受付について

求人(票)の受付社数の増減	全体(n=415)	国公立(n=94)	私立(n=321)
多い	41.2%	39.4%	41.7%
前年並み	47.7%	52.1%	46.4%
少ない	11.1%	8.5%	11.8%

求人の依頼時期	全体(n=384)	国公立(n=84)	私立(n=300)
早めた	6.8%	0.0%	8.7%
前年並み	88.8%	89.3%	88.7%
遅くした	4.4%	10.7%	2.7%

キャリアセンターに企業の人事が訪問する件数	全体(n=371)	国公立(n=84)	私立(n=287)
増えた	21.3%	26.2%	19.9%
変わらない	69.3%	69.0%	69.3%
減った	9.4%	4.8%	10.8%



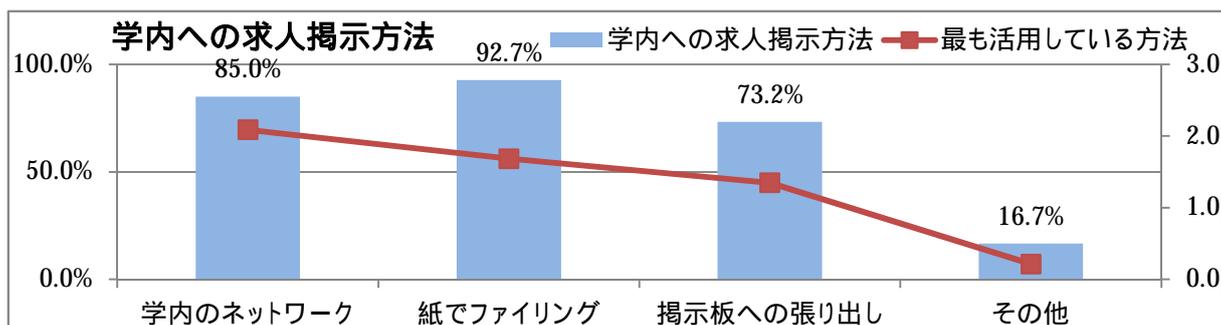
求人の受付方法	全体(n=435)	国公立(n=99)	私立(n=336)
郵送	98.6%	99.0%	98.5%
インターネット	63.0%	58.6%	64.3%
FAX	94.9%	96.0%	94.6%
メール	90.1%	91.9%	89.6%
その他	27.1%	26.3%	27.4%

「その他」で多かったもの：大学へ直接持参

学内への求人掲示方法で実施しているもの	全体(n=426)	国公立(n=99)	私立(n=327)
学内のネットワーク	85.0%	80.8%	86.2%
紙でファイリング	92.7%	91.9%	93.0%
掲示板への張り出し	73.2%	69.7%	74.3%
その他	16.7%	14.1%	17.4%

学内への求人掲示方法最も活用しているもの	全体(n=416)	国公立(n=93)	私立(n=323)
学内のネットワーク	2.1	2.0	2.1
紙でファイリング	1.7	1.9	1.6
掲示板への張り出し	1.3	1.2	1.4
その他	0.2	0.2	0.2

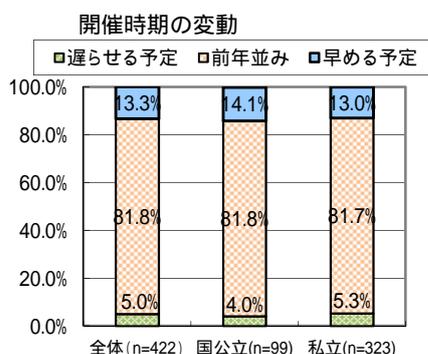
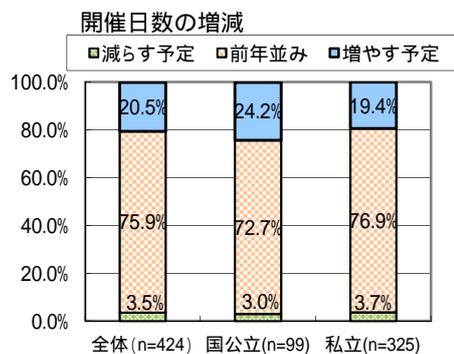
最も活用しているものに3pt、2番目に2pt、3番目に1ptで算出



5)2014年卒向け就職ガイダンスの予定について

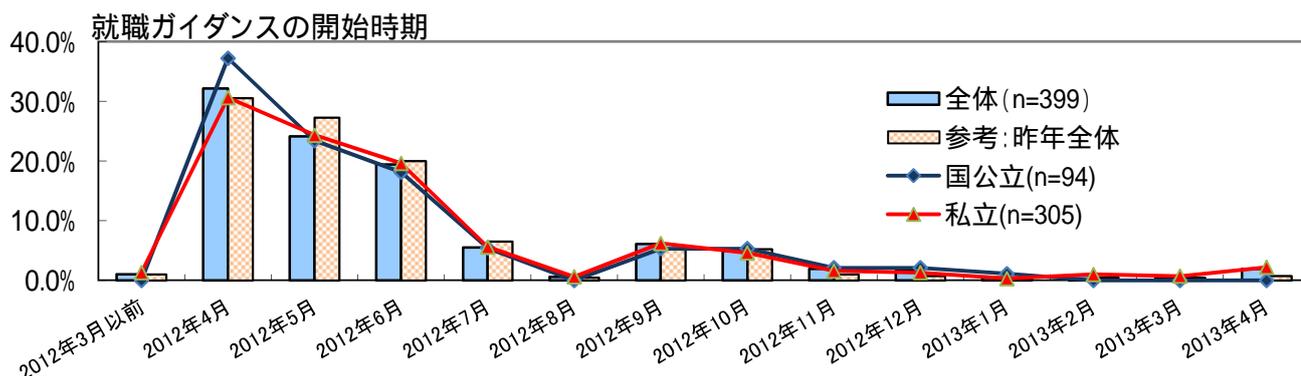
開催日数の増減	全体 (n=424)	国公立(n=99)	私立(n=325)	参考: 昨年全体
増やす予定	20.5%	24.2%	19.4%	20.0%
前年並み	75.9%	72.7%	76.9%	73.7%
減らす予定	3.5%	3.0%	3.7%	6.3%

開催時期の変動	全体 (n=422)	国公立(n=99)	私立(n=323)	参考: 昨年全体
早める予定	13.3%	14.1%	13.0%	10.7%
前年並み	81.8%	81.8%	81.7%	81.3%
遅らせる予定	5.0%	4.0%	5.3%	8.0%



2014年卒向け就職ガイダンスの開始予定時期	全体 (n=399)	国公立(n=94)	私立(n=305)	参考: 昨年全体
2012年3月以前	1.0%	0.0%	1.3%	1.0%
2012年4月	32.1%	37.2%	30.6%	30.5%
2012年5月	24.1%	23.4%	24.3%	27.3%
2012年6月	19.4%	18.1%	19.6%	20.0%
2012年7月	5.5%	5.4%	5.6%	6.5%
2012年8月	0.6%	0.0%	0.6%	0.5%
2012年9月	6.1%	5.3%	6.2%	5.3%
2012年10月	4.9%	5.3%	4.6%	5.3%
2012年11月	1.9%	2.1%	1.6%	1.0%
2012年12月	1.6%	2.1%	1.3%	0.8%
2013年1月	0.5%	1.1%	0.3%	0.3%
2013年2月	0.8%	0.0%	1.0%	0.5%
2013年3月	0.5%	0.0%	0.7%	0.5%
2013年4月	1.9%	0.0%	2.2%	0.8%

集中時期の4-6月の内訳	全体 (n=399)	国公立(n=94)	私立(n=305)	参考: 昨年全体	
2012年4月	上旬	15.5%	13.8%	16.1%	13.0%
	中旬	9.8%	12.8%	8.9%	11.8%
	下旬	6.8%	10.6%	5.6%	5.8%
2012年5月	上旬	7.5%	4.3%	8.5%	5.8%
	中旬	10.3%	10.6%	10.2%	11.8%
	下旬	6.3%	8.5%	5.6%	9.8%
2012年6月	上旬	8.8%	9.6%	8.5%	11.0%
	中旬	5.8%	5.3%	5.9%	4.8%
	下旬	4.8%	3.2%	5.2%	4.3%



6) 2014年卒向け採用広報を目的としない企業を招いて実施する業界研究セミナーについて

開催回数の増減	全体 (n=283)	国公立 (n=63)	私立 (n=220)	参考: 昨年全体
増やす予定	17.7%	17.5%	17.7%	18.5%
前年並み	79.9%	79.4%	80.0%	74.2%
減らす予定	2.5%	3.2%	2.3%	7.4%

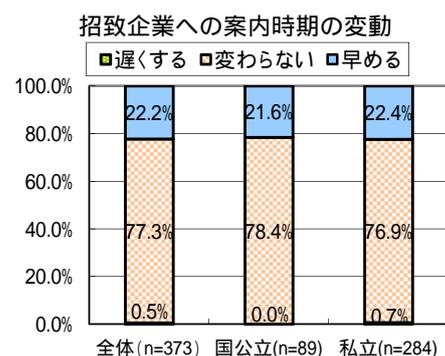
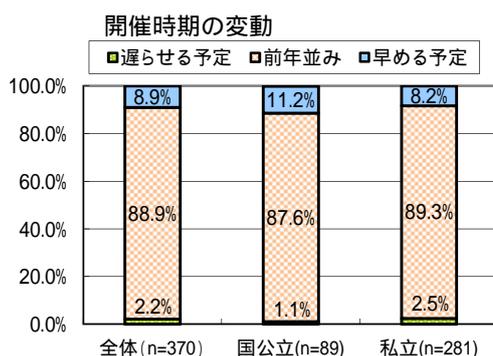
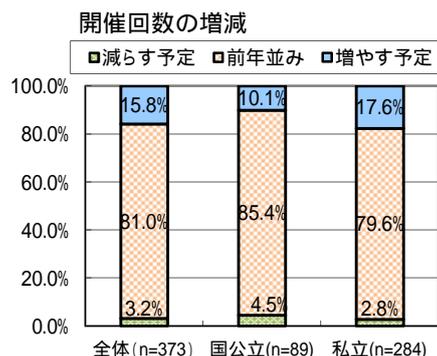
開催時期の変動	全体 (n=279)	国公立 (n=62)	私立 (n=217)	参考: 昨年全体
早める予定	11.1%	11.3%	11.1%	18.5%
前年並み	86.0%	85.5%	86.2%	74.2%
遅らせる予定	2.9%	3.2%	2.8%	7.4%

7) 2014年卒向け学内企業説明会の予定について

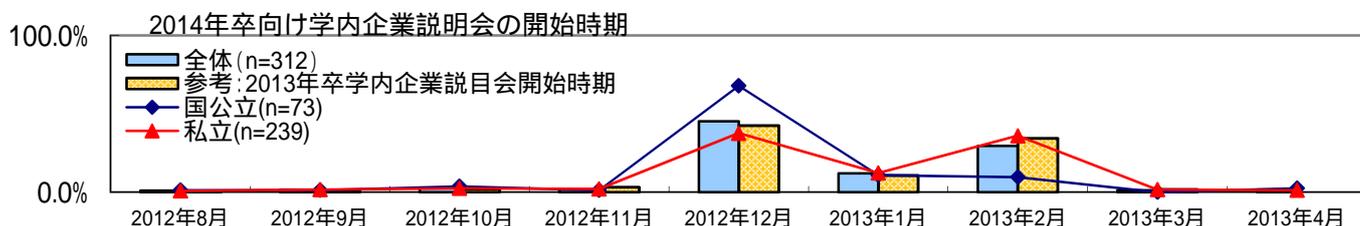
開催回数の増減	全体 (n=373)	国公立 (n=89)	私立 (n=284)	参考: 昨年全体
増やす予定	15.8%	10.1%	17.6%	13.2%
前年並み	81.0%	85.4%	79.6%	81.8%
減らす予定	3.2%	4.5%	2.8%	5.0%

開催時期の変動	全体 (n=370)	国公立 (n=89)	私立 (n=281)	参考: 昨年全体
早める予定	8.9%	11.2%	8.2%	4.1%
前年並み	88.9%	87.6%	89.3%	76.3%
遅らせる予定	2.2%	1.1%	2.5%	19.5%

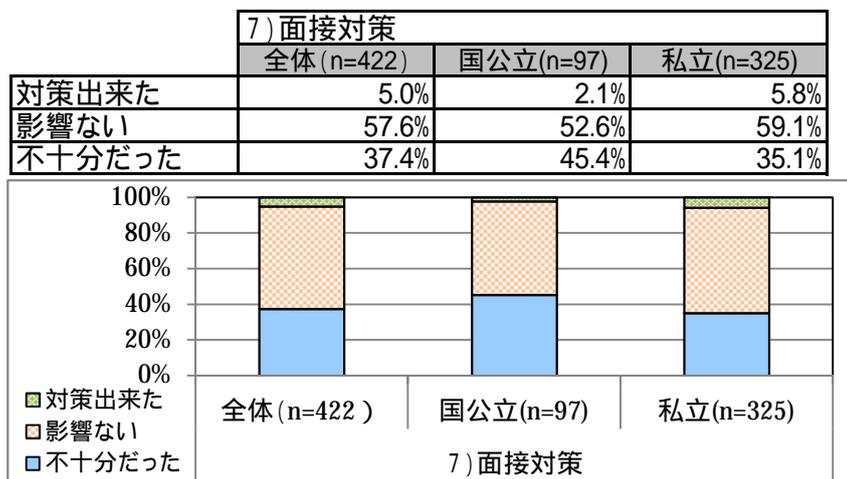
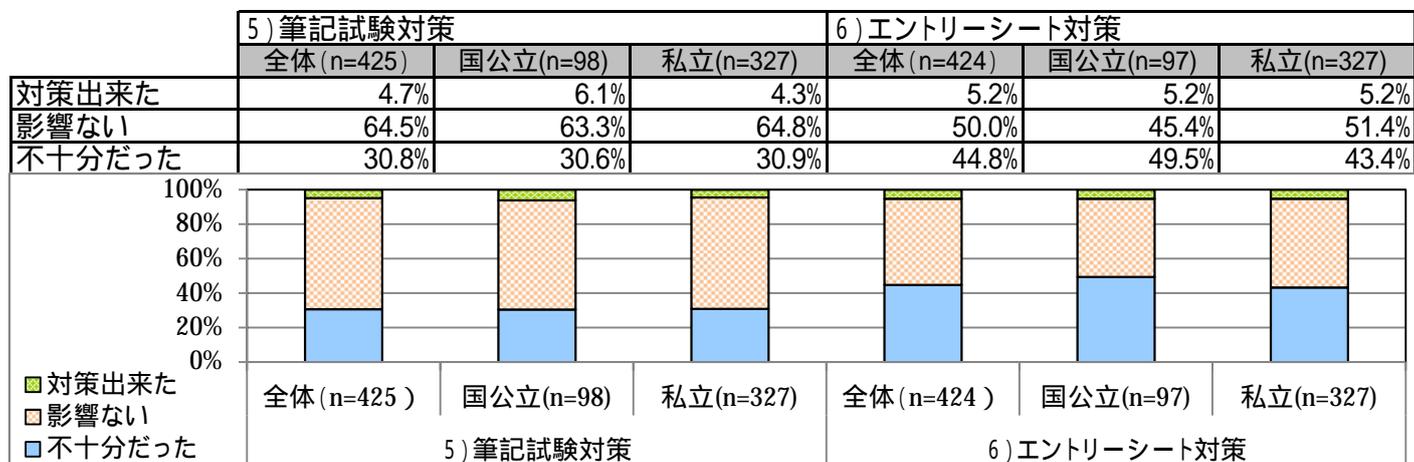
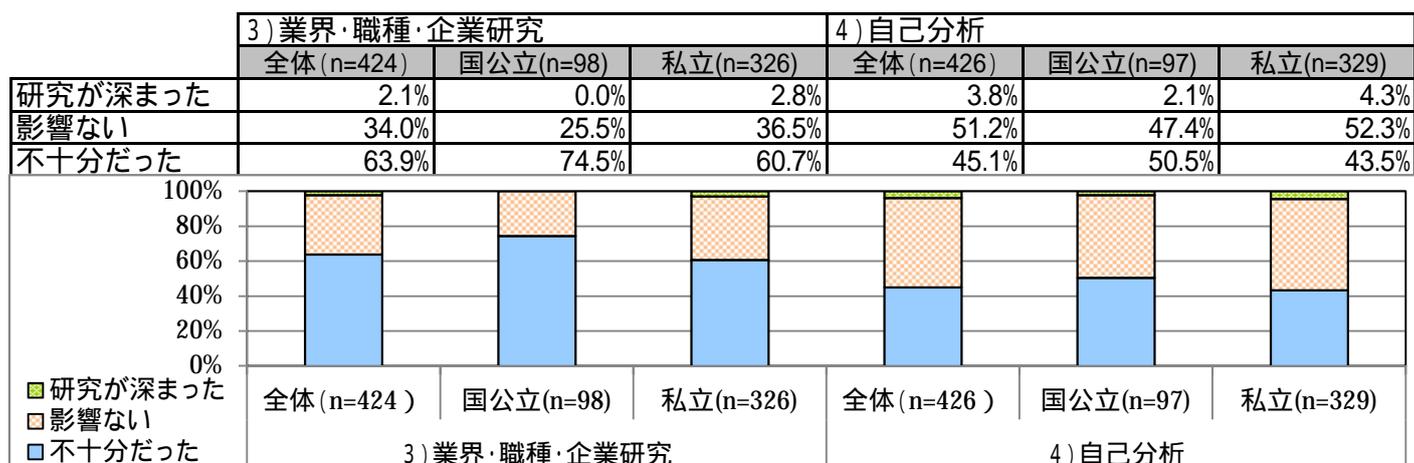
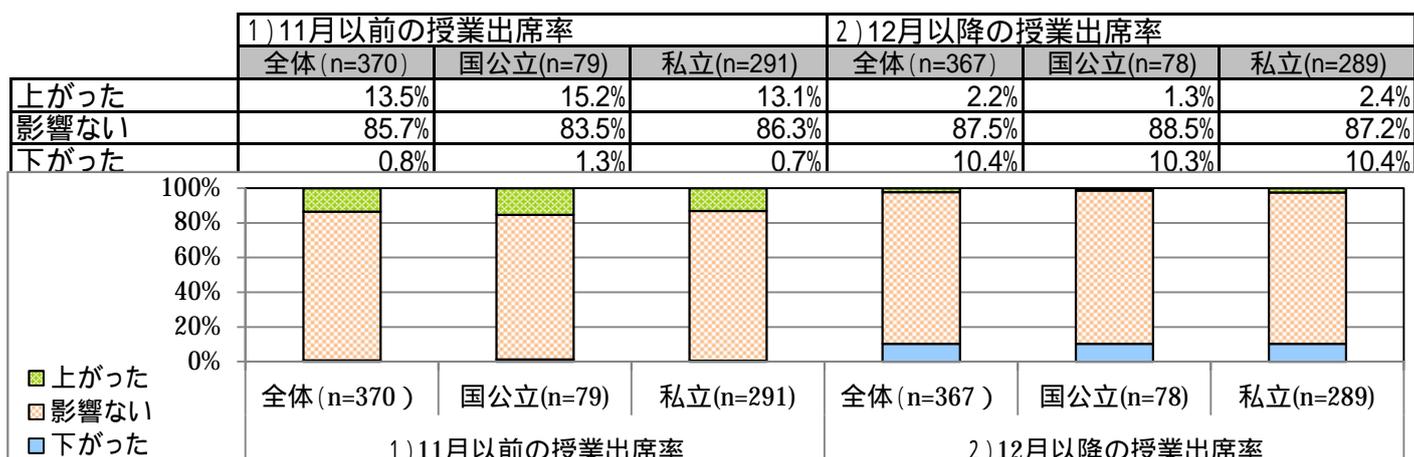
招致企業への案内時期の変動	全体 (n=365)	国公立 (n=88)	私立 (n=277)	参考: 昨年全体
早める	22.2%	21.6%	22.4%	18.8%
変わらない	77.3%	78.4%	76.9%	72.4%
遅くする	0.5%	0.0%	0.7%	8.8%

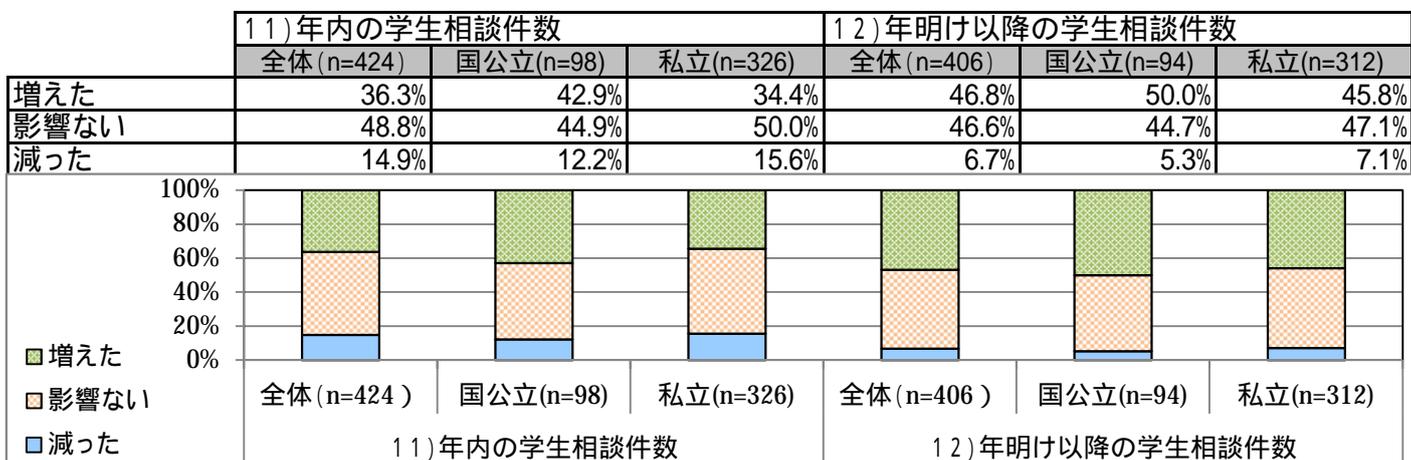
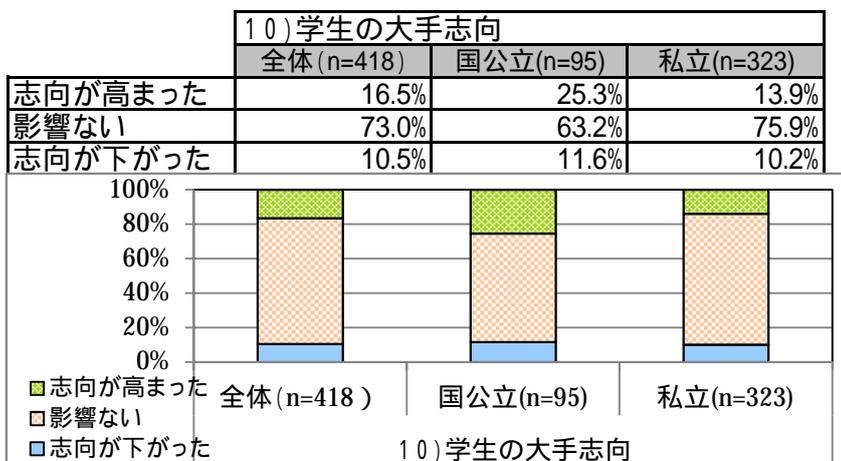
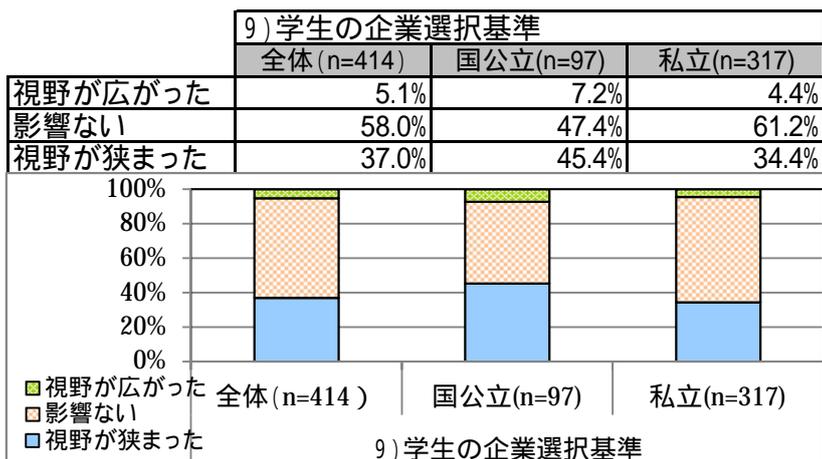
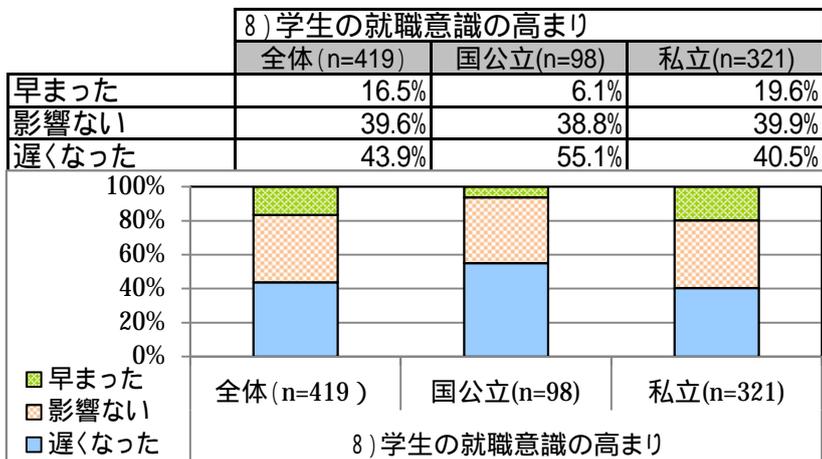


学内企業説明会の開始予定時期	全体 (n=312)	国公立 (n=73)	私立 (n=239)	参考: 2013年卒学内企業説明会開始時期
2012年3月	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2012年4月	1.8%	1.2%	2.0%	1.7%
2012年5月	0.9%	1.2%	0.8%	2.0%
2012年6月	0.3%	0.0%	0.4%	1.1%
2012年7月	1.2%	0.0%	1.6%	0.0%
2012年8月	0.9%	1.2%	0.8%	0.3%
2012年9月	1.5%	1.2%	1.6%	0.6%
2012年10月	2.7%	3.6%	2.4%	2.0%
2012年11月	1.8%	1.2%	2.0%	3.2%
2012年12月	45.2%	67.9%	37.6%	42.6%
2013年1月	11.9%	10.8%	12.2%	10.8%
2013年2月	29.5%	9.6%	36.0%	34.3%
2013年3月	1.2%	0.0%	1.6%	1.7%
2013年4月	1.5%	2.4%	1.2%	0.0%



8) 採用広報開始時期後ろ倒しの影響について





広報開始時期の変更により、学生に起こった変化として最も影響があったこと

「広報開始時期の変更により、学生に起こった変化として最も影響があったこと」は別紙資料参照 (P15)

9) 秋入学への変更が学生の就職に与える影響

ガイダンスの実施回数

	秋入学・秋に全大学移行した場合			秋入学・春と秋に分散した場合		
	全体 (n=292)	国公立(n=68)	私立(n=224)	全体 (n=289)	国公立(n=68)	私立(n=221)
増える	19.2%	14.7%	20.5%	63.0%	66.2%	62.0%
影響ない	75.3%	77.9%	74.6%	33.2%	27.9%	34.8%
減る	5.5%	7.4%	4.9%	3.8%	5.9%	3.2%

採用広報開始時期

	秋入学・秋に全大学移行した場合			秋入学・春と秋に分散した場合		
	全体 (n=275)	国公立(n=66)	私立(n=209)	全体 (n=266)	国公立(n=64)	私立(n=202)
早まる	29.5%	18.2%	33.0%	40.6%	29.7%	44.1%
影響ない	45.5%	54.5%	42.6%	50.0%	65.6%	45.0%
遅くなる	25.1%	27.3%	24.4%	9.4%	4.7%	10.9%

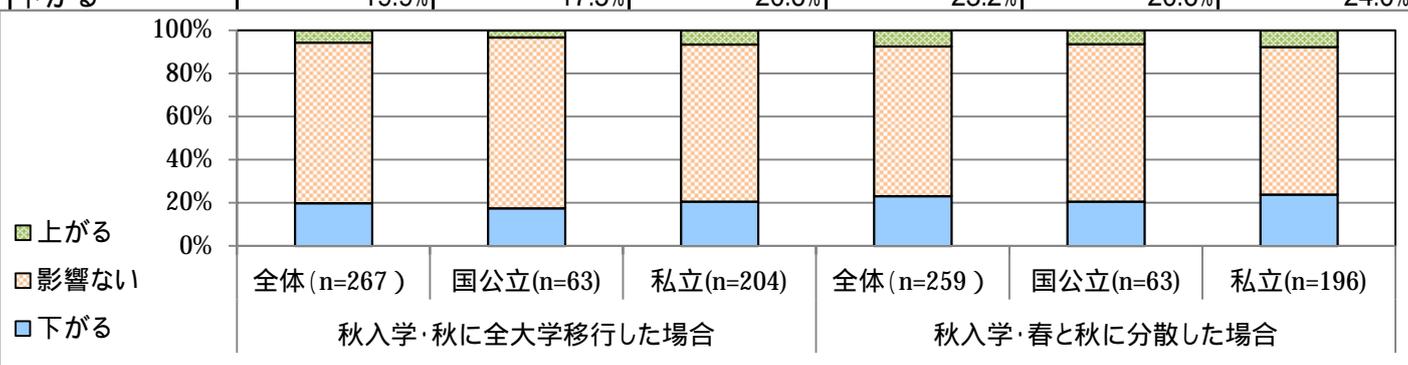
学生が就職に費やす時間

	秋入学・秋に全大学移行した場合			秋入学・春と秋に分散した場合		
	全体 (n=281)	国公立(n=64)	私立(n=217)	全体 (n=282)	国公立(n=66)	私立(n=216)
多くなる	31.0%	20.3%	34.1%	47.5%	39.4%	50.0%
影響ない	52.7%	68.8%	47.9%	42.2%	50.0%	39.8%
少なくなる	16.4%	10.9%	18.0%	10.3%	10.6%	10.2%



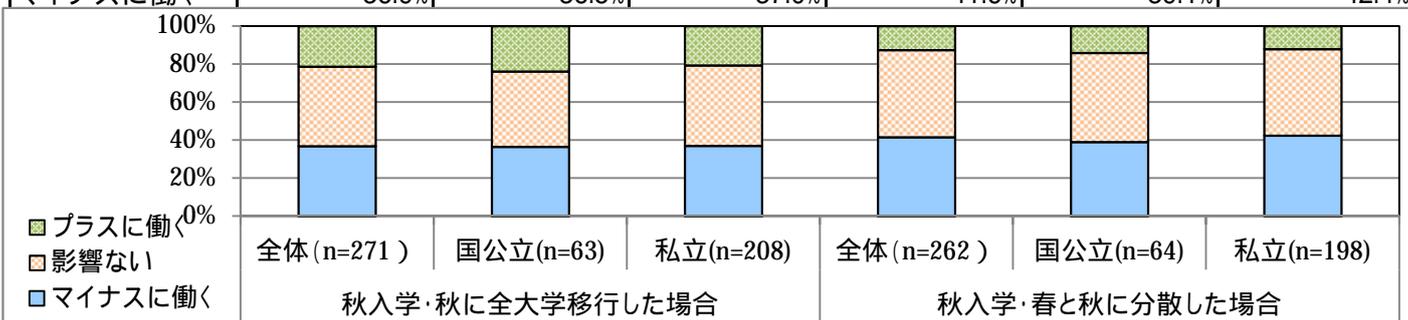
生徒の内定率

	秋入学・秋に全大学移行した場合			秋入学・春と秋に分散した場合		
	全体 (n=267)	国公立(n=63)	私立(n=204)	全体 (n=259)	国公立(n=63)	私立(n=196)
上がる	5.6%	3.2%	6.4%	7.3%	6.3%	7.7%
影響ない	74.5%	79.4%	73.0%	69.5%	73.0%	68.4%
下がる	19.9%	17.5%	20.6%	23.2%	20.6%	24.0%



ギャップタームの影響

	秋入学・秋に全大学移行した場合			秋入学・春と秋に分散した場合		
	全体 (n=271)	国公立(n=63)	私立(n=208)	全体 (n=262)	国公立(n=64)	私立(n=198)
プラスに働く	21.4%	23.8%	20.7%	12.6%	14.1%	12.1%
影響ない	41.7%	39.7%	42.3%	45.8%	46.9%	45.5%
マイナスに働く	36.9%	36.5%	37.0%	41.6%	39.1%	42.4%



10) グローバル人材について

大学で外国人留学生の受け入れを行っているか	全体 (n=427)	国公立 (n=100)	私立 (n=327)
はい	86.2%	97.0%	82.9%
いいえ	13.8%	3.0%	17.1%

在籍者数は全学生数の約何割か 在校生に占める外国人留学生の割合	全体 (n=311)	国公立 (n=85)	私立 (n=226)
	0.8割	0.7割	0.9割

外国人留学生の就職サポートはキャリアセンター中心に実施しているか

	全体 (n=343)	国公立 (n=89)	私立 (n=254)
キャリアセンターでサポート	81.0%	70.8%	84.6%
別部署でサポート	19.0%	29.2%	15.4%

2012年卒で外国人留学生の就職率

	全体 (n=323)	国公立 (n=88)	私立 (n=235)
上がった	15.8%	17.0%	15.3%
変わらなかった	55.4%	47.7%	58.3%
下がった	4.3%	2.3%	5.1%
分からない	24.5%	33.0%	21.3%

日本人学生の海外大学への留学プログラムの有無

	全体 (n=393)	国公立 (n=94)	私立 (n=299)
ある	73.5%	86.2%	69.6%
ない	26.5%	13.8%	30.4%

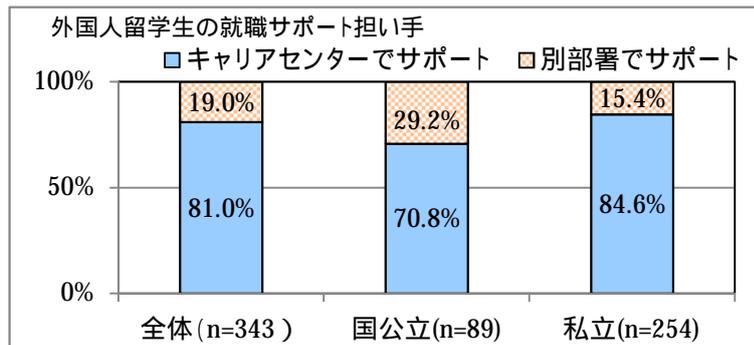
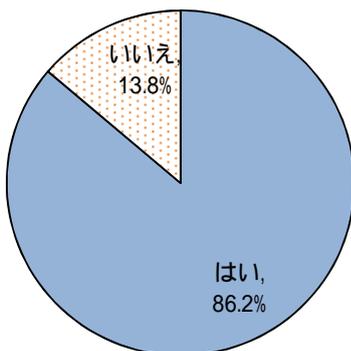
大学の留学プログラムを通じて留学した学生の割合

留学した学生の割合 (全学生数に対する割合)	全体 (n=223)	国公立 (n=65)	私立 (n=158)
	0.7割	0.6割	0.8割

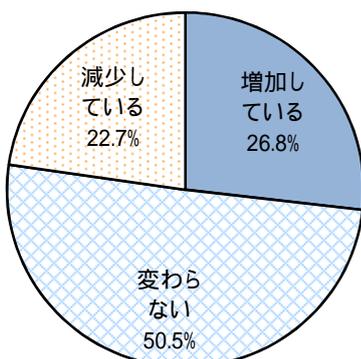
近年留学を希望する日本人学生の増減

	全体 (n=365)	国公立 (n=90)	私立 (n=275)
増加している	26.8%	42.2%	21.8%
変わらない	50.4%	45.6%	52.0%
減少している	22.7%	12.2%	26.2%

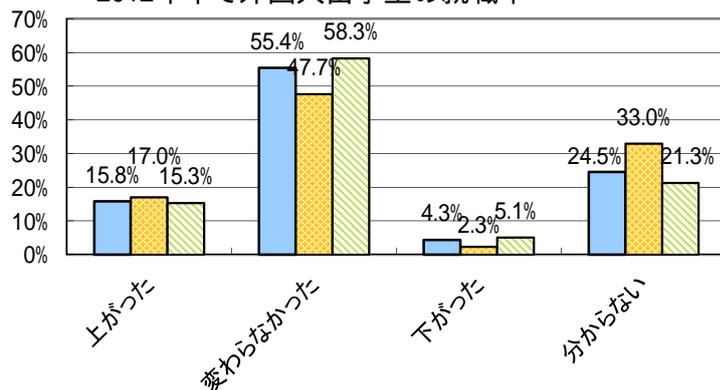
外国人留学生の受け入れ実施有無



近年留学を希望する日本人学生の増減



2012年卒で外国人留学生の就職率



11) SNSを利用した就職活動について

2013年卒の学生からSNSを活用した就職活動について相談されることはあるか

	全体(n=424)	国公立(n=99)	私立(n=325)
かなり相談を受ける	1.7%	3.0%	1.2%
時々相談を受ける	15.8%	11.1%	17.2%
あまり相談はない	49.8%	39.4%	52.9%
まったく相談されない	32.8%	46.5%	28.6%

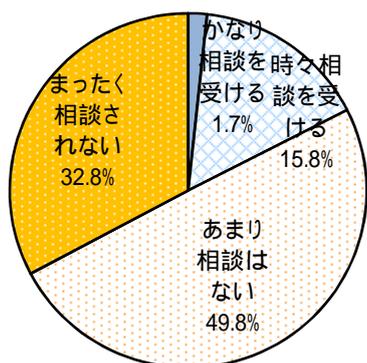
SNSを活用した就職活動に関する何らかの指導の有無

	全体(n=417)	国公立(n=94)	私立(n=323)
実施している	9.1%	4.3%	10.5%
必要だと思うが実施していない	46.5%	44.7%	47.1%
必要ないので実施していない	44.4%	51.1%	42.4%

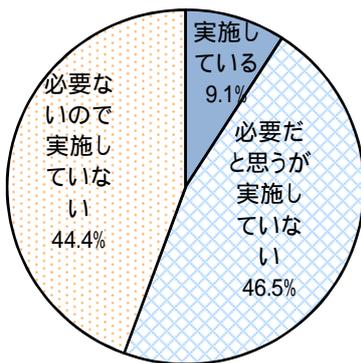
SNSを活用した就職活動に対する意見

	全体(n=401)	国公立(n=87)	私立(n=314)
大いに活用すべき	2.0%	2.3%	1.9%
一定の範囲で活用すべき	64.1%	73.6%	61.5%
あまり活用すべきではない	24.7%	20.7%	25.8%
そもそも学生がシステムを使いこなせない	9.2%	3.4%	10.8%

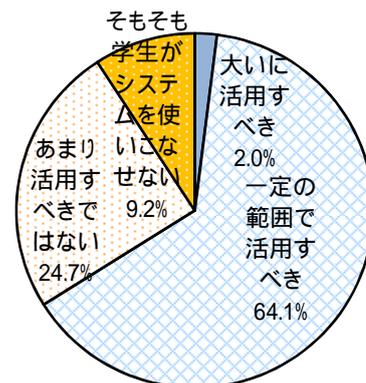
SNSを活用した就職活動についての相談



SNSを活用した就職活動に関する何らかの指導の有無



SNSを活用した就職活動に対する意見



13) 2013年卒・2014年卒の就職支援について

「2013年卒・2014年卒の就職支援について」は別紙資料参照(P16)

7) 広報開始時期の変更により、学生に起こった変化として最も影響があったこと 自由回答から一部抜粋

	エリア	学校区分	自由回答部分記載
12月集中	甲信越	私立	企業研究不足。12月に気分が一気に盛り上がりすぎ、その後の活動が停滞気味に。
	中国	国公立	企業説明会日程が集中することから学生への負担が大きくなったと感じている。
	関西	私立	12月OPENで学生たちは、我先にとエントリーをしていました。十分な企業研究もできずにエントリー数だけを追いかけたいように思います。2ヶ月間の後ろ倒しでのんびりと構えていたのが一斉に走り出し、精神的に追い詰められ、体調を崩した学生が多かったです。
良かったと評価	関東	私立	学園祭や課外活動の集大成が秋に集中するため、広報開始が12月となったことで学生生活のイベントに全力投球できたようだ。気持ちの切り替えもうまくいったようで、就職活動モードにうまく移行できた学生が多かった気がします。
	東北	私立	危機意識が高まり、支援行事参加率、就職課利用率が上がった。結果、早期内定学生が増え、その影響から就職活動を休止中であった学生も動き始めるようになってきている。
	関東	私立	業界・職種・企業研究のスタートが2ヶ月遅くなったが、10-11月でじっくり準備(自己分析、ES対策、筆記試験対策等)ができてよかったと思う。
	関東	私立	広報開始時期を遅らせたのは一歩前進と言えるが、選考開始時期が従来通りだったため、学生が十分に企業研究をする時間がなかった。
	東北	私立	広報開始時期の変更は、学生の学業に専念できる機会を増やすことにはなるが、採用側である企業の開始時期変更が徹底されていないことや就職サイト等のプログラムの変化に学生がついて行けず就職活動は混乱したと思う。
大手志向	東北	国公立	企業研究開始の時期が遅くなったと感じる学生が増えていると考えられ、大手志向が強まったように思われる。
	北海道	私立	業界・企業研究が純分にできず知名度で企業選びをするため、大手志向が高まり、就職活動で苦戦する学生が多かった。また、学年末試験期間に合同企業説明会の開催が多く、学業に支障をきたしている。
	関西	私立	幅広く業界を知る前に就職活動に入ったため、学生目線で知っている業界・会社にエントリーが偏る結果となった。エントリー数は軒並み減ってしまったが、2ヶ月短縮されたことを考えると当然かと思う。
中小企業志向	関東	私立	大手中心主義から中堅・中小企業へシフトした学生が増えたと思われる。
	関東	国公立	短期決戦のため、大手と中小の同時進行だったことから、手堅く中小企業を受ける学生が増えた。
	関東	私立	就活期間の短縮により学生に焦りが生じ、早くから中小企業にシフトする学生が増えた。
	東海	私立	エントリー後すぐに採用試験なので準備不足ではありますが、地元中小企業への就職活動ではあまり影響はありません。
機会の重複	北陸	私立	エントリーシートの集中記載の発生や合同企業説明会と企業面接及び企業面接どうしのダブリが多く発生し学生の物理的時間及び心理的影響が多く発生した。
	関東	私立	エントリー件数が減った印象がある。例年と比べ、幅広く受験できなくなっている。(時間的に制約がでてしまっている)
	北海道	国公立	近況報告や相談内容から、会社説明会や選考日が重なるケースが増えたように感じる。
	東北	国公立	説明会や、ESの時期が集中したため、学生のスケジュールが逼迫され、受けられる企業を選択する必要性に迫られた。その結果、受ける企業が少なくなったり、優先的に名のある企業を受けたようだ。
業界・企業理解不足	関西	私立	1. 学生の就職活動に対する取り組みが遅くなり、就職意欲の低下を招いたように感じる。 2. 特に企業研究の部分においてその傾向が大きかったように思われる。
	北海道	国公立	企業研究が不十分で動機形成が未熟のまま選考試験を受けてしまっている
	関東	私立	企業研究が不十分なケースが多く見受けられた。(志望動機が浅い)
	東北	私立	業界・企業研究が不十分なまま、エントリーシートを作成、提出せざるを得なかったことや、面接にのぞまなければならないことがあったこと。
	九州	国公立	業界・企業研究のできていない学生が一定数いた。また、幅広く業界を見た結果、絞りきれずにバラバラな業界の選考を受け、志望理由を書くのに苦労している様子である。
	関西	私立	業界研究が不十分なまま企業の説明会に行くことになり、企業研究が浅く、志望動機が弱いものになってしまったように思われる。
準備不足	九州	私立	10月から12月に繰り下げられた2ヶ月の間で、具体的に何をしたら良いのか分からない学生やのんびり構えた学生もかなりの数おり、これらの学生の多くが準備不足のまま就職活動に突入した模様である。
	関東	私立	まだ準備しなくても良いという油断が就活への行動を遅らせ、気付いたときには2月となりエントリーシートを提出するにも業界・企業研究が不足して志望動機が書けないなど影響があった。
	関西	私立	モチベーションが上がるまで時間がかかったようだ。これは12月スタートしてすぐに冬休みに入ったことが影響しているのではないかと。
	四国	私立	筆記テストなどの対策は少し進んだが、企業研究や自己分析など自分と向き合い考えることについては後回しにした傾向がある。企業情報が出ないことで本気度が高まらない様子。
二極化	東北	国公立	学生の二極化が進んだ印象がある。早めに動く子は10月のうちから準備を整えて12月を迎えたが、10月～1月までに動けなかった学生は、いまだに動きが鈍くなってしまっており、その傾向が昨年度より極端である。公務員専願で勉強する学生が昨年度より増加した。受験者数はあまり変化ないが、昨年度は併願が多かった。
	関東	私立	業界・企業研究する時間がないので、ミスマッチの増加が考えられる。志望動機が仕上がらない。インターン参加学生をはじめ、イイ学生とそうでない学生の二極化。
	甲信越	私立	広報期間の短縮は就職意識の乏しい学生にとって、より出遅れを招く結果になっていた。
	関西	私立	就職意欲の高い学生と低い学生の開きが大きくなった。早期内定が目立った。諦める学生が多くなった。
	東北	国公立	動き出しの早い学生と遅い学生の二極化が明確になった、合同企業説明会などで企業ブースが混雑するため、人事担当者と接する機会が少なくなった。
視野が狭まる	九州	国公立	企業研究が不十分、学生の企業選択基準が狭まった。
	関西	国公立	企業就職志望者が就職活動において受験する業種が狭まった。
	九州	私立	同時期に受験する企業が以前に比べて少ない人が多いように感じる。そのため、最初から地元の中小企業狙いなど、企業選択の幅は狭いように見える。

13)2013年卒・2014年卒の就職支援についての意見。 自由回答から一部抜粋

エリア	学校区	自由回答部分記載
私立	甲信越	GD対策セミナーの開設を多く願いたい。会話力対策などの実施。
国公立	中国	12月～1月は、平日に採用広報・選考活動が行われていた。学期中は自粛していただきたい。
私立	北海道	1度不合格になった学生の同企業への再チャレンジを(追加募集等で)認めるべき。学生の成長度をまったく考慮していない。それで「良い人材がいらない」というのは違うと思う。情報誌もその改善に取り組んでほしい。
私立	東海	2013、2014共に「職業観」が低下している。
国公立	北陸	2013年卒の求人があれば(富山県内)お知らせいただきたい。
私立	九州	2013年卒や2014年卒の就職支援はもちろん大切であるが、就職と雇用の問題を根本的に解決するためには、中長期ビジョンに基づく教育改革と行政改革の同時進行が不可欠である。たとえば、雇用したい学生の条件に、明るく元気が良く前向きで挨拶ができることを挙げる企業が殆どであり、それらは本来小・中・高等学校で既に身につけておくべきことであるから、大学への入学以前に学校教育のそれぞれの段階における分担を見直すことで、高等教育の効果や国際競争力が大きく改善されるに違いない。
私立	九州	2014年卒あたりから、就職サイト各社とも、「ネット依存」学生の問題を受け止め、何らかの改善の方向性を打ち出して欲しい。
私立	関東	SNSを活用した活動について、学生が情報を出すことに無防備な傾向であるので、注意を促す方策が必要。
国公立	関東	グローバル人材については、大学同士の協力が必要だと思う。
私立	関西	デザイン・クリエイティブの業種・職種の企業を増やしてほしい。
私立	関東	どちらも就職環境を踏まえながら、時期を考慮の上、行事を実施する予定である。
私立	関東	ハローワーク主催の合同企業説明会では本学でも数名の内定をいただきました。中小企業を志望する学生も近年増加しているので説明会も今後、国の方針として増やして欲しいと思います
私立	関東	ミスマッチを解消するためにも有名企業が率先して採用基準を明確化し、客観的な基準を示すべきと考えている。
私立	関東	暗中模索で分からない、どこへ向かっているのか…。
私立	関東	外資金融、コンサルなど、倫理憲章に関係のない企業がある以上、効果が薄いばかりか、より活動しにくくなっていると思う。(足並みがそろわないため)
私立	関東	学生が自ら自分にあった職業を見つけ、自分にあった職業に就くための就職支援が理想です。学生の主体性の票室に力点を置いた指導と学生と企業の実効的な出会いの場の創出が今後の重要課題。
私立	関東	学生と企業のマッチングを強化していく。
国公立	関東	学生により差はあるが、情報不足が目立つ。情報の取り方はWEBサイト以外にも多数あるが、使いこなせていないように見受けられる。情報提供も効果的な手段を考え、工夫していかなければいけないと感じている。
私立	東北	学生に有意義な環境を何とか用意したいと考えています。
私立	関東	学生の就職意欲の低下、精神力の弱さ(採用試験で不合格になり、そのことに落ち込み立ち直れない)。
私立	関東	学生の二極化はますます進むと思われる。一律な指導ではなく、個別面談など個々の学生に対応したサービスが望まれる。
私立	甲信越	企業の採用選考が早まらないように協力して欲しい。
私立	関西	企業間での申し合わせを守らない企業が出てくるので、やはりそのあたり特に上場企業などは順守をお願いしたい。
国公立	東北	企業研究などで出遅れないよう指導・支援するので、学内就職ガイダンス等への積極的な参加と主体的就職活動を奨励する。
国公立	北陸	企業説明会や採用試験など、平日に実施された場合、学生にとって全大学が足並みを揃え公欠扱いとなれば、より一層計画的な応募ができる。
私立	関西	教員との連携です。教員の協力が大きく学生の就職活動に影響すると思います。教員の協力のもと、キャリアサポートセンター利用率を向上させ進路決定率を上げることが本学の課題です。
私立	東海	業界・企業についてより詳しい情報を求めている学生が見受けられることから、業界毎の研究セミナーや合同企業説明会がより一層充実することを希望する
私立	九州	業界・企業研究をするにあたり、インターネットやパンフレットからの情報だけで満足している(やったつもの)学生が増加傾向にあります。実際に会社訪問や社会人に会うなど行動することの大切さを伝えることが重要だと感じております。
国公立	東北	近年、中小企業に目を向けるよう、世の中では言われています。しかし、学生も中小企業とは口に出しますが、何をもって中小企業と位置づければいいのか分かっていません。東京から見ると東北の企業はだいたいが中小企業。しかし、東北・地方の学生からすると、中小企業とはいえない。地方、地元の中企業に目を向けようとも、求人はどこで探せばいいかまた悩む。といった感じです。
私立	関西	現代の就職活用術といった、SNSを活用した就活方法のセミナーなどがあれば、聞いてみたいと思います。
私立	北陸	個々に合った支援を展開し、ミスマッチ防止。 内定欲しさに希望外も受験しており、未来の目標を見失っている？
国公立	北海道	公務員数の削減傾向にも関わらず、経済状況への不安からか、公務員志望が増えている現状にどう対処すべきかが課題となっている。

エリア	学校区	自由回答部分記載
私立	関東	広報開始の変更は、学業に配慮した動きであるものの、結局、1月の学年末試験に影響があることに変わりはない。
私立	東北	広報開始時期の変更により学生間の格差が益々広がっていることから、早期の意識付けを促す必要があると考える
国公立	関西	採用広報の開始が12月よりとなったことによって、学生の業界・業種・企業研究の不足が、企業サイド・大学サイドの双方から問題視されている。複雑化する社会において、この問題を解決していくためには、大学3年生から始まる就職活動という枠組みで、業界・業種・企業研究を考えるのではなく、初等教育から高等教育までを一貫させて、学生に社会と関わり、社会を分析し、自己を分析する機会を多様に提供していくこと(キャリア支援)が、ますます必要になってくると考える。短期的には、インターンシップを中心とした早期に企業と関わることができる機会をいかに最大活用していくかを考慮する必要があると考える。
私立	関東	昨今増えてきているグループディスカッションや集団面接対策(模擬も含め)をもっと実用的に実施したい。
私立	関東	昨年度から採用広報開始時期の変更や秋入学移行を視野に入れた採用の見直しなど、就職活動状況が大きく変わろうとしている時期であり、不安を抱える学生も多い。まずは正確な情報提供に努めたい。
国公立	東北	昨年度は震災の影響もあり、比較できない部分もある。
私立	関東	士気の下がった学生(内定獲得ピーク時に獲れない学生)をどう活発に活動させるか。
私立	関東	就職サイトの一体化または共通化。サイトによって載っている載っていないがあると学生は負担。
私立	中国	就職することによって、若い人たちが明るい未来を創造できる様な社会にしたい。
国公立	関西	職業観の醸成、仕事へのヴィジョン、どんな社会人になりたいかといったこと等を鍛える機会を学生により多く提供できる魅力的なプログラムの必要性を感じている。現在、本学では秋入学を含めた教育改革全般的に検討を開始しておりまして、各事項の回答出来る段階には至っておりません。就職に関しては、企業側(含官公庁)が採用時期を卒業時期に連動させること、ギャップタームの活用(留学、社会体験など)につきましても、留学先、企業など影響する組織との事前協議が必要と考えます。また、経済界などと十全に協議を重ね、学業専念を損なうことないように取り組まなければならないと考えております。
私立	関西	新卒採用のシステムが縮小していつている。何かその指標はないか。また、雇用のレベルが上がっている。何かその指標はないか。
私立	関東	新聞報道などでは企業の採用人数が増加傾向とあるが、実感としてはほとんど増えているとは感じられない。
私立	東海	説明会は土日で開催して欲しい。
私立	東海	早めの対策、準備が重要であると学生たちに指導しています。
私立	東北	卒業後を考える取り組み姿勢の養成を目指し、手法を模索中である。
私立	甲信越	卒年に関係ないが、低学年(1,2年生)に対する就職支援を充実させてほしい。
私立	北陸	多様な学生が増加する昨今、多様な基準で採用し、入社後(採用後)に育てる負担を社会全体で覚悟するべきではないか。
国公立	東北	内定辞退やセミナーのキャンセルなど、学生の企業に対するモラルが低下しているの、'マナー'を重視した支援が重要ではないか
私立	関西	粘り強さや克服する力が弱く、困難に打たれ弱い学生が増えている。親が国の施策かわかりませんが、大学4年間で直すのは難しい。就職しても簡単にやめてしまったり、心の病を持ったケース等など、見た目ではわからないので、指導に戸惑う場合が目立ってきた。
私立	東北	被災地にある大学としてのハンデを強みに変えていけるよう学生を励ましております。
私立	九州	福祉企業と一般企業の労働・給与条件の改善是正(少子高齢化社会への人材活用)。
私立	関西	2012年の卒業生より就職情報の公開が10月から12月になったことは、基本的に歓迎すべきことだと思います。ただ、大学は本来学業に専念いたす場所であり、できることであれば、せめて情報の公開は4年生になってからが良いのではないかと思います。時代や環境の変化が勿論あると思いますが、大昔小職の時代か4年生の10月1日スタートでした。そこまでは難しいと思いますが、秋入学の件も含め、世の中全体で考える必要があると思います。
私立	東海	本学のように地方の小規模大学では地元出身の学生を地元の中小企業に就職させる就職指導をしていますのであまり参考にならないと思います。
私立	北海道	本学学生が受験しそうな求人情報があれば提供してください。
私立	四国	本来的な大学教育(人材育成)が未完のまま就職活動の支援をすることとなり、矛盾も生じている。
私立	東海	薬学生に関する配慮の働きかけ。
私立	関東	倫理憲章による採用広報、選考開始日の設定、一方でその拘束を受けないケース、SNSの活用など、学生の進路選択を取り巻く環境が一層複雑化し、どんな条件にしても学業に支障がある印象を受けている。
私立	北陸	例年、日本経団連による「採用選考に関する企業の倫理憲章」の中で守られているのは、広報活動の開始の時期だけで、10/1までの内々定辞退に学生達は苦労している。
私立	甲信越	例年動き出しが遅く、就活スタートの波に乗れない学生が多い。こういった学生達を減らすための方策についてご支援いただきたい。